

2020年度 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、2021年3月18日に「2019年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

2021年5月11日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 社本 太郎（株式会社 モンシエル代表取締役）
2. 今井 昌人（有限会社 O'S フード所属）
3. 田中 健太（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 卒業生）
4. 星野 正純（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校長）
5. 木下 光（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 副校長）
6. 後藤 一宏（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 学科長）
7. 鈴木 博明（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 調理師専科 学科長）
8. 岩田 壮介（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務長）
9. 山田 直瑠（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務職員）

以上9名

2. 2020年度 自己評価（2019年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	評価：適切である。 課題：将来構想が出来ていない学生が増えている。その穴をどう埋めるのかが課題。 保護者や企業（特に個人事業主）に対して、育成人材像の明確な理解、周知が不足している。業界の求める人材像の学生への周知。 改善策：HR、新着情報の活用、保護者会のさらなる実施でより学校の理念等を理解してもらおう。 保護者や企業（特に個人事業主）等からのアンケートや情報交換会等によるフィードバックが必要。
(2) 学校運営	評価：ほぼ適切である。 課題：働き方改革を実践するため、職員はワークライフバランスを意識した日々の行動を策定し、最大のパフォーマンスを以て時間内に業務処理を行う。

	<p>改善策：不必要・効率化できる仕事の吟味をし、各自のスケジュール管理をする。 効率化するための設備投資を本気で取り組む。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：適切である。 課題：教職員研修はよりレベルの高い研修が必要。 授業評価の体制の強化、確立（より良い授業への昇華のため） 改善策：研究授業の取り組み、研修制度の見直し。 研究授業を行うことで、客観的に(教員目線)見てどう伝えるかを改めて取り組み方等を見直す。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：適切である。 課題：卒業生の社会的な活躍を把握し、評価していくシステムが不足している。 改善策：企業訪問を増やす、同窓会を使って卒業生の現状把握を行う。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：適切である。 課題：心身共に様々な悩みを抱える学生の心のケアを教員だけでは処理しきれない。 高等教育課程とのさらなる連携。 学生に対する様々な支援体制（経済面含む） 改善策：カウンセラーの配置、また教員との連携。 成績優秀者への二年次学費免除等の検討、実施。 学生が相談しやすいように、忙しそうに見せない等。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：今後定員が充足した時、実習室、教室の稼働が高まり、ハード面に不具合が出る可能性がある。 緊急時に、校舎間での避難に関する情報共有が必要である。 使用可能教室の確保とそれに伴う防災の備えが必要である。 改善策：ハードの設備投資が急務である（冷暖房機等できるところから） 校舎間の情報共有および避難訓練、防災グッズの購入。 防災に関しては、学内防災委員会等で早期に対策を講じる。</p>
(7) 学生の受け入れ 募集	<p>評価：適切である。 課題：HP や媒体、SNS を使った外部への教育効果の更なる PR。 高校生の OC 参加人数の増加。 改善策：SNS の活用、動画作成などで幅広く知ってもらおう。 魅力ある広報活動の考案。</p>
(8) 財務	<p>評価：適切である。 課題：財務に関する知識をもっと深め、改善できるところに気付けるようになる。 改善策：積極的な研修の実施と参加、情報共有。</p>
(9) 法令等の遵守	<p>評価：適切である。 課題：個人情報への開示物の保管方法、自己評価に対する改善。 改善策：個人情報の開示物の保管方法を厳重にする。関係部署による改善報告。</p>
(10) 社会貢献・ 地域貢献	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：地域貢献の充実、ボランティア活動が不足している。公開講座や教育訓練が足りない。地域のボランティア活動の把握。 改善策：教員間で考案をしていく、外部から委託される存在になる（学校の認知を高めることで）。</p>

--	--

3. 2019年度 学校関係者評価 (2018年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	前年度の評価委員会にて出された改善策が活かされた点もあるが、盤石な物にするためにこれからもアンケート等で意見を取り入れていかなくてはならない。また社会情勢や家庭環境等により心身ともに不安定になる生徒の対応を教員だけでなくスクールカウンセラー等も活用し生徒が健全な学校生活を過ごせるよう努めていただきたい。